

チンゲンサイとコマツナの主要害虫と観察ポイント

「増やさない」サイクルのうち、害虫の発生を初期で抑えるための「予察」ポイントを取り上げます。害虫被害が発生しやすい箇所と症状を把握しましょう。

① キスジノミハムシ



成虫は葉を食害し1mm程の穴を多数開ける。幼虫は根を食害するが、葉物では実害はほとんど見られない。

詳しくは p.23

② アブラムシ類



密集し、葉の汁を吸う。多発すると、収穫後も葉や心部に残存し商品価値が低下する。

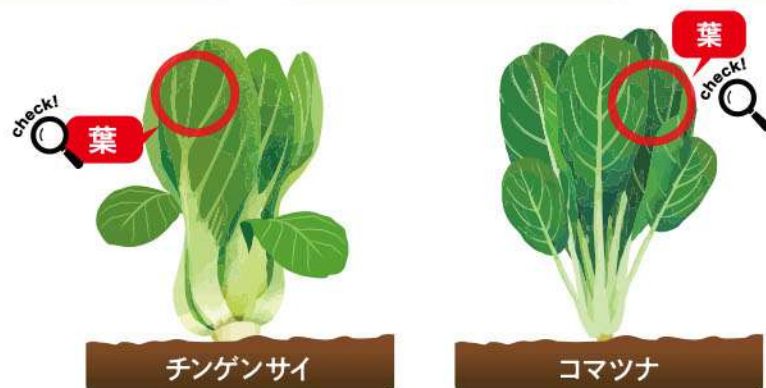
詳しくは p.24

③ コナガ



蛾の仲間で、幼虫が葉を食害する。

詳しくは p.24



主な害虫の発生生態と対策

① キスジノミハムシ



葉や茎を食害
成虫で2mm程度

発生生態

- ・ 年間で6～7回発生し、冬春期に多くなる
- ・ 卵、幼虫、蛹は土壌中に生息し、あまり見かけない

対策

- 0.6mm目合いの防虫ネットを設置する
- 前作で多発した場合は、粒剤等で作付初期の防除を徹底する



キスジノミハムシの防除に使用できる節減対象農薬以外の農薬はありません。事前の対策を徹底した上で、発生したら本マニュアル巻末の農薬一覧を参考に早めの防除を徹底しましょう。

② アブラムシ類



葉裏に密集
1～4mm程度

発生生態

- ・ 年間多くの世代を繰り返し、吸汁加害するだけでなく、ウイルス病を媒介する
- ・ 個体密度が高くなったり、作物の栄養条件が悪くなったりすると有翅虫が出現し、ほかの作物に移動分散する

▲ コロニー内の有翅虫と無翅虫 (ニセダイコンアブラムシ)

- 対策**
- 発生源となる圃場周辺の雑草を除去し、被害残渣を処分する
 - 目合い0.8mm以下の防虫ネットを設置する
 - 育苗期にシルバー遮光ネットで被覆し、有翅虫の飛来を忌避する
 - シルバーマルチを使用し、飛来を忌避して蛹化を防止する
 - 繁殖力が著しいため初期防除に努める

アブラムシ類の防除に使用できる節減対象農薬以外の農薬(※1)

IRACコード	系統名	農薬名
—	気門封鎖剤	サフオイル乳剤、サンクリスタル乳剤
UNF	微生物	ボタニガードES

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。(詳細はp.19参照)

※ 表の農薬は、令和6年版病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類で当該害虫に適用のあるものを記載しています。

※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

③ コナガ



幼虫が葉を食害
老齢幼虫で12mm程度

発生生態

- ・ 小型の細長い蛾で、日中に活動する
- ・ 葉上に産卵する
- ・ 孵化幼虫は葉肉内を、2齢幼虫以降は葉裏を食害する
- ・ 幼虫は多くのアブラナ科植物を加害する

対策

- 目合い2～4mm以下の防虫ネットを設置する
- 薬剤抵抗性を発達させやすいため、BT剤など薬剤抵抗性がつきにくい薬剤をローテーションして使う
- 栽培面積が広い場合は合成性フェロモン剤による防除も有効

コナガの防除に使用できる節減対象農薬以外の農薬(※1)

IRACコード	系統名	農薬名
11A	BT剤	エスマルクDF、サブリーナフロアブル、ゼンターリ顆粒水和剤、チューンアップ顆粒水和剤、デルフィン顆粒水和剤、トアローフロアブルCT、トアロー水和剤CT、バシレックス水和剤
UNF	微生物	ボタニガードES

※1 特別栽培において、節減対象とならない(使用回数がカウントされない)農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。(詳細はp.19参照)

※ 表の農薬は、令和6年版病害虫防除の手引き(沖縄県植物防疫協会)を参照し、作物名が野菜類で当該害虫に適用のあるものを記載しています。

※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

事例紹介

沖縄本島南部に設置したモデル圃場における農薬散布実績を特別栽培区(特裁区)と慣行栽培区(慣行区)についてご紹介します。

農薬散布実績 / チンゲンサイ

栽培概要 : 14ページ参照
散布期間 : 2023/10/25~2023/11/26
節減対象農薬使用回数 : 1回 慣行基準(4回)の50%(2回以下)削減で特裁基準達成
特裁区における対策 : 両区画とも、前作でキスジノミハムシが発生したため播種前に粒剤を土壌混和して土壌中に潜む幼虫・蛹を防除したほか、0.6mm目合いの防虫ネットを設置し害虫を侵入させない環境づくりを図った。一部、チョウガ類の幼虫が発生した際はBT剤(今回はデルフィン顆粒水和剤使用)を早期に散布した。

チンゲンサイのモデル圃場(南部)における時期別農薬散布状況の比較

散布時期	対象	特裁区	特裁区における特記事項	慣行区
播種前	キスジノミハムシ	①フォース粒剤	前作でキスジノミハムシが発生したため、播種前に土壌混和した	①フォース粒剤
栽培中	キスジノミハムシ、アブラムシ類	—	—	②アルバリン顆粒水溶剤
	コナガ等	デルフィン顆粒水和剤	—	③ディアナSC
節減対象成分使用回数		1回		3回
使用した節減対象農薬以外の農薬の種類		1種類		

※ 表中、特裁区欄の緑色は節減対象農薬以外の農薬を示す。
※ フォース粒剤は非結球あぶらな科葉菜類で農薬登録あり。

農薬散布実績 / コマツナ

栽培概要 : 14ページ参照
散布期間 : 2023/11/8~2023/12/2
節減対象農薬使用回数 : 1回 慣行基準(5回)の50%(2回以下)削減で特裁基準達成
特裁区における対策 : 両区画とも、0.6mm目合いの防虫ネットを設置したほか、チンゲンサイと近接していたため、キスジノミハムシ対策として播種前に粒剤を土壌混和した。また、チョウガ類の幼虫が発生した際は、チンゲンサイ同様BT剤を使用して初期防除を行った。

コマツナのモデル圃場(南部)における時期別農薬散布状況の比較

散布時期	対象	特裁区	特裁区における特記事項	慣行区
播種前	キスジノミハムシ	①フォース粒剤	前作でキスジノミハムシが発生したため、播種前に土壌混和した	①フォース粒剤
栽培中	キスジノミハムシ、アブラムシ類	—	—	②アルバリン顆粒水溶剤
	コナガ等	デルフィン顆粒水和剤	—	③ディアナSC
節減対象成分使用回数		1回		3回
使用した節減対象農薬以外の農薬の種類		1種類		

※ 表中、特裁区欄の緑色は節減対象農薬以外の農薬を示す。
※ フォース粒剤は非結球あぶらな科葉菜類で農薬登録あり。

モデル圃場における害虫対策

防草シートで雑草対策+害虫侵入防止

圃場周辺の雑草が病害虫の発生源となる可能性があるため、定期的な草刈り、通路に防草シートを敷くなどして雑草対策を徹底した。また、防虫ネットの裾を防草シートで押さえて隙間をなくし、害虫の侵入を防いだ。

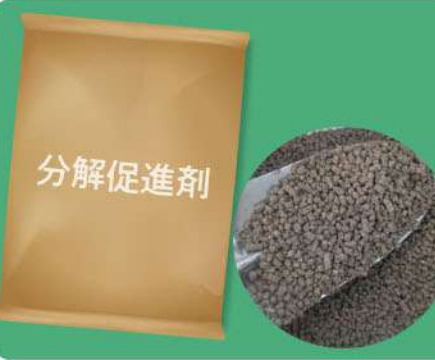


防虫ネットの裾に除草シートを重ねてピンで数か所固定



残渣の分解を促進し、病気発生リスクを軽減

病害発生リスクを減らすため、残渣は可能な限り除去し、次作に影響しないよう分解促進剤を施用した。



チンゲンサイの主要病害登録殺菌剤一覧



F R A C コード	系 統 区 分	病 害 虫 名	軟腐病	べと病	白さび病	節減対象農薬 以外の農薬（※1）／◎
		農 業 商 品 名				
NC、M01	炭酸水素塩、無機銅	ジーファイン水和剤	●		●	◎
M1	無機銅	ICボルドー66D	●			
		Zボルドー	●	●		
		クプロシールド	●	●		
		コサイド3000	●			
31	キノロン系	スターナ水和剤	●			
11	ストロビルリン	アミスター20フロアブル			●	
11、4	ストロビルリン、フェニルアマイド	ユニフォーム粒剤			●	

※1 特別栽培において、節減対象とならない（使用回数がカウントされない）農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。（詳細はp.19参照）

※ 表の農薬は、令和6年版病害虫防除の手引き（沖縄県植物防疫協会）を参照し、作物名がチンゲンサイ、野菜類で当該病害に適用のあるものを記載しています。

※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

チンゲンサイの主要害虫登録殺虫剤一覧



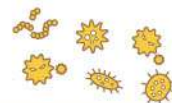
I R A C コード	系 統 区 分	病 害 虫 名	アブラムシ類	キスジノミハムシ	コナガ	節減対象農薬 以外の農薬（※1）／◎
		農 業 商 品 名				
11A	BT	エスマルクDF			●	◎
		サブリーナフロアブル			●	
		ゼンターリ顆粒水和剤			●	
		チューンアップ顆粒水和剤			●	
		デルフィン顆粒水和剤			●	
		トアローフロアブルCT			●	
		トアロー水和剤CT			●	
		バシレックス水和剤			●	
—	気門封鎖剤	オレート液剤	●			◎
		ムシラップ	●			
		粘着くん液剤	●			
		フーモン	●			
		エコピタ液剤	●			
		サフオイル乳剤	●			
NC	脂肪酸（気門封鎖剤）	サンクリスタル乳剤	●			◎
UNF	微生物	ボタニガードES	●		●	
1A	カーバメート	ランネート45DF	●			
28	ジアミド系	フェニックス顆粒水和剤			●	
5	スピノシン	ディアナSC			●	
4A	ネオニコチノイド	モスピラン粒剤	●	●	●	
		モスピラン顆粒水溶剤	●	●		
		ダントツ水溶剤	●			
		ダントツ粒剤	●			
		アルバリン粒剤	●	●		
		アルバリン顆粒水溶剤	●	●		
		スタークル粒剤	●	●		
		スタークル顆粒水溶剤	●	●		
		アクタラ粒剤5	●			
		アクタラ顆粒水溶剤	●			
14	ネライストキシシン	パダンSG水溶剤		●	●	
3A	ピレスロイド	アグロスリン乳剤	●			
13	ピロール	コテツフロアブル			●	
15	ベンゾイル尿素（IGR脱皮阻害）	ノーモルト乳剤			●	
6	マクロライド	アフファーム乳剤			●	
6、15	マクロライド、ベンゾイル尿素（IGR脱皮阻害）	アフファームエクセラ顆粒水和剤			●	

※1 特別栽培において、節減対象とならない（使用回数がカウントされない）農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。（詳細はp.19参照）

※ 表の農薬は、令和6年版病害虫防除の手引き（沖縄県植物防疫協会）を参照し、作物名がチンゲンサイ、野菜類で当該害虫に適用のあるものを記載しています。

※ 農薬登録内容は令和6年2月14日時点の情報に基づく。
農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

|| コマツナの主要病害登録殺菌剤一覧 ||



F R A C コード	系 統 区 分	病 害 虫 名	軟腐病	べと病	白さび病	節減対象農薬 以外の農薬（※1）／◎
		農 業 商 品 名				
NC、M01	炭酸水素塩、無機銅	ジーファイン水和剤	●		●	◎
M1	無機銅	ICボルドー66D	●			
		Zボルドー	●	●		
		クプロシールド	●	●		
		コサイド3000	●			
11	ストロビルリン	アミスター20フロアブル			●	
11、4	ストロビルリン、フェニルアמיד	ユニフォーム粒剤			●	

- ※1 特別栽培において、節減対象とならない（使用回数がカウントされない）農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。（詳細はp.19参照）
- ※ 表の農薬は、野菜類においては令和6年版病害虫防除の手引き（沖縄県植物防疫協会）を参照（令和6年2月14日時点）、また、コマツナについては農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し（令和7年1月15日時点）、当該病害に適用のあるものを記載しています。
- ※ 農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

|| コマツナの主要害虫登録殺虫剤一覧 ||



I R A C コード	系 統 区 分	病 害 虫 名	アブラムシ類	キスジノミハムシ	コナガ	節減対象農薬 以外の農薬（※1）／◎
		農 業 商 品 名				
11A	BT	エスマルクDF			●	◎
		サブリーナフロアブル			●	
		ゼンターリ顆粒水和剤			●	
		チューンアップ顆粒水和剤			●	
		デルフィン顆粒水和剤			●	
		トアローフロアブルCT			●	
		トアロー水和剤CT			●	
		バシレックス水和剤			●	
—	気門封鎖剤	オレート液剤	●			◎
		ムシラップ	●			
		粘着くん液剤	●			
		フーモン	●			
		エコピタ液剤	●			
		サフオイル乳剤	●			
	脂肪酸（気門封鎖剤）	サンクリスタル乳剤	●			
UNF	微生物	ボタニガードES	●		●	
1A	カーバメート	ランネート45DF	●			
5	スピノシン	ディアナSC			●	
4A	ネオニコチノイド	ダントツ水溶剤	●			
		ダントツ粒剤	●			
		アクタラ粒剤5	●			
		アクタラ顆粒水溶剤	●			
		バリアード顆粒水和剤	●			
13	ピロール	コテツフロアブル			●	
6	マクロライド	アフファーム乳剤			●	
6、15	マクロライド、ベンゾイル尿素（IGR脱皮阻害）	アフファームエクセラ顆粒水和剤			●	
28	ジアミド系	ヨーバルフロアブル			●	
UN	プロペニルオキシフェニル	プレオフロアブル			●	
1B	有機リン	オルトラン粒剤	●			
		ダイアジノン粒剤5		●		

- ※1 特別栽培において、節減対象とならない（使用回数がカウントされない）農薬として有機JAS規格で使用可能な農薬及び特定農薬等があります。（詳細はp.19参照）
- ※ 表の農薬は、野菜類においては令和6年版病害虫防除の手引き（沖縄県植物防疫協会）を参照（令和6年2月14日時点）、また、コマツナについては農薬登録情報提供システム（<https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し（令和7年1月15日時点）、当該害虫に適用のあるものを記載しています。
- ※ 農薬登録は随時更新されるので、農薬の使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認すること。

本マニュアルは、
特別栽培農産物認証等推進・普及事業（沖縄振興特別推進交付金）における
特別栽培農産物認証の栽培マニュアル作成委託業務（委託先：株式会社マイファーム）の
成果を活用して作成しました。
本マニュアルを作成するにあたり、下記の方々をはじめ、
多くの方々や関係機関にご協力を賜りました。
心より感謝申し上げます。

五十音順、県関係者の所属は省略

＜情報・データ提供＞

沖縄協同青果株式会社
沖縄県農業協同組合農業 振興本部営農販売部（青果）・生産資材部
スガノ農機株式会社
第一農薬株式会社
琉球産経株式会社
琉球肥料株式会社

＜写真提供＞

沖縄県植物防疫協会

＜編集協力＞

沖縄県農林水産部
営農支援課農業革新支援班
農業研究センター
北部農林水産振興センター農業改良普及課
宮古農林水産振興センター農業改良普及課
南部農業改良普及センター
病虫害防除技術センター

安次富 厚氏	棚原 尚哉氏
上里 卓己氏	比嘉 基晶氏
上原 弘樹氏	儀間 靖氏
神里 春樹氏	長浜 隆市氏
喜久村 智子氏	細川 理恵氏
座波 幸司氏	宮城 明生氏
島谷 真幸氏	宮城 徳道氏
新崎 千江美氏	



令和7年発行
沖縄県特別栽培農産物栽培マニュアル
作物編 チンゲンサイとコマツナ

監修・発行 沖縄県農林水産部営農支援課
沖縄県那覇市泉崎1-2-2
TEL: 098-866-2280

編集 株式会社マイファーム
意匠・印刷 カラーズプロダクション

